

特許協力条約

発信人 日本国特許庁（国際調査機関）

代理人 山下 昭彦 様 あて名 〒104-0031 日本国東京都中央区京橋一丁目16番10号 オークビル京橋4階 東京セントラル特許事務所内
--

REC'D 12 MAY 2005

WIPO PCT

PCT
 国際調査機関の見解書
 (法施行規則第40条の2)
 [PCT規則43の2.1]

発送日
 (日.月.年)

10.5.2005

出願人又は代理人
 の書類記号 030943PCT

今後の手続きについては、下記2を参照すること。

国際出願番号
 PCT/J P 2005/000119

国際出願日
 (日.月.年) 07.01.2005

優先日
 (日.月.年) 09.01.2004

国際特許分類 (IPC) IntCl.⁷ F02F5/00, F16J9/06

出願人 (氏名又は名称)
 日本ビストンリング株式会社

1. この見解書は次の内容を含む。

- ☒ 第I欄 見解の基礎
- ☐ 第II欄 優先権
- ☐ 第III欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解の不作成
- ☐ 第IV欄 発明の単一性の欠如
- ☒ 第V欄 PCT規則43の2.1(a)(i)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明
- ☐ 第VI欄 ある種の引用文献
- ☐ 第VII欄 国際出願の不備
- ☐ 第VIII欄 国際出願に対する意見

2. 今後の手続き

国際予備審査の請求がされた場合は、出願人がこの国際調査機関とは異なる国際予備審査機関を選択し、かつ、その国際予備審査機関がPCT規66.1の2(b)の規定に基づいて国際調査機関の見解書を国際予備審査機関の見解書とみなさない旨を国際事務局に通知していた場合を除いて、この見解書は国際予備審査機関の最初の見解書とみなされる。

この見解書が上記のように国際予備審査機関の見解書とみなされる場合、様式PCT/ISA/220を送付した日から3月又は優先日から22月のうちいずれか遅く満了する期限が経過するまでに、出願人は国際予備審査機関に、適当な場合は補正書とともに、答弁書を提出することができる。

さらなる選択肢は、様式PCT/ISA/220を参照すること。

3. さらなる詳細は、様式PCT/ISA/220の備考を参照すること。

見解書を作成した日

18.04.2005

名称及びあて先

日本国特許庁 (ISA/J P)
 郵便番号100-8915
 東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

特許庁審査官 (権限のある職員)

小林 正和

電話番号 03-3581-1101 内線 3355

3G

3111

様式PCT/ISA/237 (表紙) (2004年1月)

第 I 欄 見解の基礎

1. この見解書は、下記に示す場合を除くほか、国際出願の言語を基礎として作成された。

☐ この見解書は、_____ 語による翻訳文を基礎として作成した。
それは国際調査のために提出された PCT 規則 12.3 及び 23.1(b) にいう翻訳文の言語である。

2. この国際出願で開示されかつ請求の範囲に係る発明に不可欠なヌクレオチド又はアミノ酸配列に関して、以下に基づき見解書を作成した。

a. タイプ ☐ 配列表

☐ 配列表に関連するテーブル

b. フォーマット ☐ 書面

☐ コンピュータ読み取り可能な形式

c. 提出時期 ☐ 出願時の国際出願に含まれる

☐ この国際出願と共にコンピュータ読み取り可能な形式により提出された

☐ 出願後に、調査のために、この国際調査機関に提出された

3. ☐ さらに、配列表又は配列表に関連するテーブルを提出した場合に、出願後に提出した配列若しくは追加して提出した配列が出願時に提出した配列と同一である旨、又は、出願時の開示を超える事項を含まない旨の陳述書の提出があった。

4. 補足意見：

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についてのPCT規則43の2.1(a)(i)に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性 (N)	請求の範囲 1-12	有
	請求の範囲	無
進歩性 (IS)	請求の範囲 5, 6	有
	請求の範囲 1-4, 7-12	無
産業上の利用可能性 (IA)	請求の範囲 1-12	有
	請求の範囲	無

2. 文献及び説明

文献1: J P 11-230344 A (トヨタ自動車株式会社)
1999. 08. 27

文献2: J P 8-296497 A (日立金属株式会社)
1996. 11. 12

文献3: 日本国実用新案登録出願59-8937 (日本国実用新案登録出願公開60-122554号)の願書に添付した明細書及び図面の出願の内容を撮影したマイクロフィルム (川崎重工業株式会社)
1985. 08. 19

請求の範囲1-4、7、8

文献1には、ピストンリングと、ピストンリングをその径方向外方に押圧付勢するコイルエクスパンダとを有する組合せピストンリングのコイルエクスパンダに用いられ、断面形状が矩形状であり、側面が平面状のコイルエクスパンダ用線材が開示されている(段落【0019】、図2等参照。)

文献2には、ピストンリング用線材において、ピストンリングを形成する際、ピストンリングの外周面となるピストンリング用線材の表面が、凸状の曲面状に形成され、内周面となるピストンリング用線材の表面が、凹状の曲面状に形成された構成が開示されている(段落【0005】、図10等参照。)

そして、凸状の曲面の高さをどの程度にするかは、所望の形状のコイルエクスパンダを得るべく、当業者が適宜なし得た設計事項にすぎないものであり、外周面を塑性加工面、すなわち、研磨や切削等の処理を施さない面とすることも、同様に、当業者が適宜なし得た設計事項である。

また、コイルエクスパンダが付勢するピストンリングをオイルリングとすることは、当業者が適宜選択し得た事項である。

したがって、文献1記載のコイルエクスパンダ用線材に、文献2記載の上記構成を採用し、請求の範囲1-4、7又は8に係る発明とすることは、当業者が容易に想到し得たものであり、進歩性を有しない。

補充欄

いずれかの欄の大きさが足りない場合

第 V 欄の続き

請求の範囲 9-12

文献 3 には、コイルエクスパンダ用線材を形状記憶合金により形成する構成が開示されている（第 3 頁第 18 行～第 4 頁第 8 行，図 2 等参照。）。

したがって、請求の範囲 9-12 に係る発明は、文献 1-3 記載の発明に基いて当業者が容易に想到し得たものであり、進歩性を有しない。

請求の範囲 5, 6

請求の範囲 5, 6 に係る発明は、国際調査報告に引用されたいずれの文献にも記載されておらず、当業者にとって自明なものでもない。

特許協力条約

発信人 日本国特許庁（国際調査機関）

代理人

山下 昭彦

様

あて名

〒104-0031
日本国東京都中央区京橋一丁目16番10号
オークビル京橋4階 東京セントラル特許事務所内

REC'D 12 MAY 2005

WIPO PCT

PCT

国際調査機関の見解書
(法施行規則第40条の2)
[PCT規則43の2.1]

発送日
(日.月.年)

10.5.2005

出願人又は代理人

の書類記号 030943PCT

今後の手続きについては、下記2を参照すること。

国際出願番号

PCT/J P 2005/000119

国際出願日

(日.月.年) 07.01.2005

優先日

(日.月.年) 09.01.2004

国際特許分類 (IPC) Int.Cl.⁷ F02F5/00, F16J9/06

出願人 (氏名又は名称)

日本ピストンリング株式会社

1. この見解書は次の内容を含む。

- ☒ 第I欄 見解の基礎
- ☐ 第II欄 優先権
- ☐ 第III欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解の不作成
- ☐ 第IV欄 発明の単一性の欠如
- ☒ 第V欄 PCT規則43の2.1(a)(i)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明
- ☐ 第VI欄 ある種の引用文献
- ☐ 第VII欄 国際出願の不備
- ☐ 第VIII欄 国際出願に対する意見

2. 今後の手続き

国際予備審査の請求がされた場合は、出願人がこの国際調査機関とは異なる国際予備審査機関を選択し、かつ、その国際予備審査機関がPCT規66.1の2(b)の規定に基づいて国際調査機関の見解書を国際予備審査機関の見解書とみなさない旨を国際事務局に通知していた場合を除いて、この見解書は国際予備審査機関の最初の見解書とみなされる。

この見解書が上記のように国際予備審査機関の見解書とみなされる場合、様式PCT/ISA/220を送付した日から3月又は優先日から22月のうちいずれか遅く満了する期限が経過するまでに、出願人は国際予備審査機関に、適当な場合は補正書とともに、答弁書を提出することができる。

さらなる選択肢は、様式PCT/ISA/220を参照すること。

3. さらなる詳細は、様式PCT/ISA/220の備考を参照すること。

見解書を作成した日

18.04.2005

名称及びあて先

日本国特許庁 (ISA/J P)
郵便番号100-8915
東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

特許庁審査官 (権限のある職員)

小林 正和

電話番号 03-3581-1101 内線 3355

3G

3111

様式PCT/ISA/237 (表紙) (2004年1月)

第 I 欄 見解の基礎

1. この見解書は、下記に示す場合を除くほか、国際出願の言語を基礎として作成された。

☐ この見解書は、_____ 語による翻訳文を基礎として作成した。
それは国際調査のために提出された PCT 規則 12.3 及び 23.1(b) にいう翻訳文の言語である。

2. この国際出願で開示されかつ請求の範囲に係る発明に不可欠なヌクレオチド又はアミノ酸配列に関して、以下に基づき見解書を作成した。

a. タイプ ☐ 配列表

☐ 配列表に関連するテーブル

b. フォーマット ☐ 書面

☐ コンピュータ読み取り可能な形式

c. 提出時期 ☐ 出願時の国際出願に含まれる

☐ この国際出願と共にコンピュータ読み取り可能な形式により提出された

☐ 出願後に、調査のために、この国際調査機関に提出された

3. ☐ さらに、配列表又は配列表に関連するテーブルを提出した場合に、出願後に提出した配列若しくは追加して提出した配列が出願時に提出した配列と同一である旨、又は、出願時の開示を超える事項を含まない旨の陳述書の提出があった。

4. 補足意見：

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についてのPCT規則43の2.1(a)(i)に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性 (N)	請求の範囲	1-12	有
	請求の範囲		無
進歩性 (IS)	請求の範囲	5, 6	有
	請求の範囲	1-4, 7-12	無
産業上の利用可能性 (IA)	請求の範囲	1-12	有
	請求の範囲		無

2. 文献及び説明

文献1: JP 11-230344 A (トヨタ自動車株式会社)
1999.08.27

文献2: JP 8-296497 A (日立金属株式会社)
1996.11.12

文献3: 日本国実用新案登録出願59-8937 (日本国実用新案登録出願公開60-122554号)の願書に添付した明細書及び図面の出願の内容を撮影したマイクロフィルム (川崎重工業株式会社)
1985.08.19

請求の範囲1-4、7、8

文献1には、ピストンリングと、ピストンリングをその径方向外方に押圧付勢するコイルエクスパンダとを有する組合せピストンリングのコイルエクスパンダに用いられ、断面形状が矩形状であり、側面が平面状のコイルエクスパンダ用線材が開示されている(段落【0019】、図2等参照。)

文献2には、ピストンリング用線材において、ピストンリングを形成する際、ピストンリングの外周面となるピストンリング用線材の表面が、凸状の曲面状に形成され、内周面となるピストンリング用線材の表面が、凹状の曲面状に形成された構成が開示されている(段落【0005】、図10等参照。)

そして、凸状の曲面の高さをどの程度にするかは、所望の形状のコイルエクスパンダを得るべく、当業者が適宜なし得た設計事項にすぎないものであり、外周面を塑性加工面、すなわち、研磨や切削等の処理を施さない面とすることも、同様に、当業者が適宜なし得た設計事項である。

また、コイルエクスパンダが付勢するピストンリングをオイルリングとすることは、当業者が適宜選択し得た事項である。

したがって、文献1記載のコイルエクスパンダ用線材に、文献2記載の上記構成を採用し、請求の範囲1-4、7又は8に係る発明とすることは、当業者が容易に想到し得たものであり、進歩性を有しない。

補充欄

いずれかの欄の大きさが足りない場合

第 V 欄の続き

請求の範囲 9-12

文献 3 には、コイルエクスパンダ用線材を形状記憶合金により形成する構成が開示されている（第 3 頁第 18 行～第 4 頁第 8 行，図 2 等参照。）。

したがって、請求の範囲 9-12 に係る発明は、文献 1-3 記載の発明に基いて当業者が容易に想到し得たものであり、進歩性を有しない。

請求の範囲 5, 6

請求の範囲 5, 6 に係る発明は、国際調査報告に引用されたいずれの文献にも記載されておらず、当業者にとって自明なものでもない。